

都市生活支援

第6号

救援ニュース

1995. 5. 23

都市生活救援現地本部
西宮市今津山中町9-9
都市生活西宮センター内
電話：0306181792

新たな態勢で中長期的な救援活動を

現地救援本部の役割の第一は生協都市生活組合員の救援活動を支援することにあります。4、5月も西宮中央体育館をはじめとする炊き出し活動、青空市、イベント(5/14の『神戸わんぱく祭り』、5/21の『芦屋STEP by STEP FESTA』)を後方支援してきました。また被災された組合員への〈お見舞い金〉の受付も400件を超えました。仮設住宅設置状況調査は間もなく終了します。今後の持続的救援活動のための調査も間もなく開始される予定です。

まず生き延びることから普通の生活を取り戻すことへと、人々の目標も移ってきました。あせらず、〈ぼちぼちいこか〉との心の余裕も少しですが生まれてきているようです。助け合いながら共に再生する気持ちが、そのまま活動になって現れています。『協同』は人と人の『共生』に高められて、生協都市生活は再生するに違いありません。

さて4月初旬、京都エルコープの方々を中心とした現地救援本部態勢による救援活動は一応の区切りをつけました。未曾有の災害にいち早く駆け付け、教科書のない救援活動を組み立て実行されました。現地救援本部に残された膨大なメモ、資料類から日々の苦闘・格闘ぶりがしのべれます。エルコープ役職員の皆さん、多数のボランティアの皆さん、本当にごくろうさまでした。

5月連休までは芦屋市民学生救援隊の池田啓一さん、大阪事業連の松井一郎さんが炊き出しを中心とする生協都市生活組合員の救援活動を支えました。またこの間、協同組合石けん運動連絡会の『シャボン玉フォーラム in KOBE』が開催され、生協都市生活組合員の被災状況、救援活動を全国の参加者に伝える機会を得ました。

連休明けから現地救援本部は新たな態勢を整えました。生活クラブ生協連合会の林洋一(東京)小松高志(長野)、生協グリーンコープ事業連合の鷲野正和の各氏を迎え、芦屋市民学生救援隊の池田啓一さん、事務まとめ役として組合員の吉田英津子さん、大阪事業連(泉北生協)から川島が加わり、6名が現地救援本部を構成しています。生活クラブ生協連合会・生協グリーンコープ事業連合からの派遣は2～3週間で交替される予定ですが、小松さんは4ヶ月の長期にわたる常駐予定で中心的な役割が期待されています。

生協都市生活名谷センターのボランティア活動

生協都市生活西神戸支部の内田さんから名谷センター管内（西神戸支部、南神戸支部、北神戸支部）の組合員によって取り組まれた救援活動についてレポートいただきました。比較的被害の少なかった名谷センター管内の組合員の皆さんは震災直後から被害の大きい隣接地の長田区、兵庫区等で救援活動に取り組まれてきました。現地救援本部としては炊き出し現場への配送要員の応援態勢の調査等の連携をとってきましたが、初期の交通事情の悪さもあって詳しい情報把握ができていませんでしたので、貴重な報告です。

西神戸支部委員長 内田 潮路

1月17日、今まで経験した事のない大地の怒涛をまともに体中で受けた私たちは、何が何やら分からぬまま、その日を過ごしました。だんだんその被害状況がわかっていくにつれ、生きてて良かったという実感と、こうしちゃおられないという思いに駆られ、三三五五センターに集まりました。まだ余震の心配もあり、子供を家に残しては、自分たちのできる事は限りがあるけれど、とにかく集まった力で何かしようと、炊き出しが始まりました。

最初は、持ち寄りの材料で何とか工夫をしましたが、そのうち各地の友好生協がさまざまな支援をして下さったので、6カ所の避難所にのべ15回行くことができました。週の初めに、その週の予定を立て、材料調達、野菜切りを前日までに済ませ、当日は大鍋数個とプロバングス、調味料や食材をのせて、亀裂の入ったデコボコ道、ちっとも進まない大渋滞の道を、何とか昼前までに駆けつけました。やはり皆さん、あたたかい物が一番のようで、ほっぺたが落ちそうなくらいおいしいぞうすいをたくさんの人にふるまう事ができました。私たちが「ありがとう、おしかったわ」のひと言で、ほんわりとうれしい気持ちになり、ぞうすい一杯を通して“元気”をやりとりしていたと思います。

地域では、洗たくできない被災者のために、洗たく物を預かって家で洗うという洗たくボランティアを早くから進めているところもあり、自宅で小さい子供がいてもできるボランティアとして、たくさんの方が関わる事ができたようです。

もちろん家族や親戚を預かっている家もあり、それぞれ傷も深く、この地震は私たちの生活をガラリと変えてしまいました。

各地に仮設住宅が建ち、私たちの町の様子も以前と違ってきています。すでに入居が始まっている所もあり、同じ地域に暮らす者同志、何かつながりがもてたらと思っています。自治会の催すウェルカムパーティーに、何か自分たちのできる事で参加しようとしている地域もあり、また、会を発足してぞうきんを作ってさしあげているグループもあります。

いろいろな活動を通して感じた事は、「人間ひとりでは生きていけない」というあたり前の事です。私たちは家庭の主婦です。家の外に出て行く時、気がかりなのは、子供の事です。そんな時、ちょっと声をかけあえるご近所づきあいがあれば、ずい分気持ちになります。子供も安心します。そして、お互いによその子も育てながら地域が育って行く、そんな関係がとても大切だと思います。ひとりで悩まないで、何か一緒に外に向かってみんながパワー全開になれる地域づくりを目指したいですネ。

仮設住宅への支援が始まりました

5月17日(水)、尼崎市塚田地区の椀田公園に建設された仮設住宅(42軒)への支援活動が取り组まれました。

この取り組みは、尼崎支部「尼崎地域復興部会」として初めての活動で、都市生活尼崎支部8地区の組員約30人が参加されました。組員手作りの山菜おこわ・おはぎ・みそ汁の炊き出しと、都市生活の消費材の青空市が仮設住宅の皆さんでにぎわいました。

仮設住宅を個別に訪問しても良いのですがプライバシーの問題もあり、青空市まで足を運んでいただいて困っていること等を率直にお話してほしいと考え、事前に「お花」のプレゼント券を全戸に配布していました。42軒中17軒の方がお花を受け取りに来ていただけ、喜んでいただきました。特に観葉植物が大好評でした。

また、このお花は、尼崎にある重度身体障害者共同作業所「KTH」に協力いただきました。「KTH」は、季節の草花・観葉植物・園芸用品を販売している共同作業所です。当日も電動車椅子で2人の仲間が販売係として参加いただけました。

共同作業所にも参加いただけたことで、これまでの組員だけの活動から一歩進んで新しい展開が見えたようにも思えました。

仮設住宅への取り組みを強化しようと考えているところでしたので、お花のプレゼント・共同作業所との連携など、生協都市生活として仮設住宅支援活動を進める際の良い例として、今後に生かせる点がたくさん見つかったと考えられます。

※ 次号の救援ニュース(7号)で尼崎支部地域復興部会長の木村さんより詳しい報告を予定します。

“ 神戸わんぱくまつり ”

大雨の中、盛大に開催される！

5月14日（日曜日・母の日）、神戸総合運動公園において「神戸わんぱく祭り」が開催されました。これは、震災で「神戸まつり」が中止になったため、被災した子供らに1日でも不自由な生活を忘れ楽しんでもらおうと、市内で活動しているボランティア等が企画したものです。当日はあいにくの雨天にもかかわらず、30以上のイベントが行われ、家族連れなど約三万人の人々でにぎわいました。

都市生活生協も名谷センターが中心となって、「もちつき大会（きなこもちの配布）」や牛乳の配布をおこないました。友好生協の泉北生協をはじめ千里山生協、オレンジコープ、大阪東部生協等の参加協力もあり、出展テント周辺は終日人だかりで活気づき、にこやかな笑顔やなごやかな歓声が大雨による沈うつなムードをふきとばしていました。以下、主催委員会のたちあげから当日のきりまわしまで奮闘された真田常任理事に報告をおねがいしました。

神戸わんぱくまつり - あしたの神戸が見えたらいいなあ - に参加して

真田 由美子

神戸わんぱくまつりは、遊び場を震災で失ってしまった子供たちに、みどりゆたかな総合運動公園で思いっきり手足を伸ばして遊んでもらえるように、多くの子供が参加できるイベントを中心に企画されました。震災での精神的なショックに加え、学校が避難所となっていたり仮設教室が校庭に建てられたりしているため、歓声をあげたり走りまわったりできない子供たちがたくさんいます。また、例年行われていた「神戸まつり」も今年は中止となりました。子供たちが笑顔を取りもどすきっかけになって欲しい、そして、そうした元気な神戸っ子を見ることによって大人もホッとするのはないかという思いが込められています。

実行委員会は中央区役所7F（三宮）にあります。そごうや新聞会館の取り壊しの下をビクビクしながら通り抜け、このビルも半壊ではないかと思うような（トイレは全館使用禁止）ところに実行委員会のあるボランティアルームに何回か行きました。実行委員会はほとんどが兵庫県外のボランティアで、話を詰めるごとに子どもたちを遊ばしてもらうのではなく、地元の私たちが企画段階から参加し、祭りを造る「自主・参加型」でないと本当の神戸わんぱくまつりにはならないという思いがつのり、生活協同組合都市生活での参加と、より充実したものにするために大阪事業連合会の協力応援を依頼しました。

当日は、あいにく朝から雨でしたが、都市生活生協は餅つき、牛乳、折り紙で遊ぼう千里山生協は缶釣りゲームと都市生活と合同で折り紙で遊ぼう、オレンジコープは人形劇と紙芝居、そして大阪東部生協は昔話などを、テント内と雨が小降りになった時は石畳に出て行いました。組合員は総勢50名くらいと職員8名、現地救援本部から3名の参加がありました。餅つきは40Kgのもち米で20臼をついてきなこ餅にし、牛乳は120本をコップに入れて配りました。他の炊き出しが12時からだったせいか11時過ぎてから配ることのできたきなこ餅は長蛇の列ができ、待っている人に都市生活生協のカラーチラシを配ることもできました。他のイベントを見る余裕はありませんでしたが、雨の中でもしっかりと子どもが遊べたのは私たちの企画したイベントだけだったようで、当日夕方の朝日テレビのニュースには餅つき（一般参加有り。子どもも多数つきました。）とトラックの荷台で行った人形劇が放映され、翌日の朝刊では朝日新聞で缶釣りゲームの写真、読賣新聞で餅つきの写真が掲載されました。4月下旬に参加を決め準備期間が少なく、とくに大阪事業連の参加組合員の方にはいろいろ御迷惑をかけました。この神戸わんぱくまつりや救援活動を行うなかで、連帯と協力の力で大きなことをやりこなすことができました。今年1年間は救援活動がメインになると思いますが、この力を継続した生協活動のなかにうまく組み込む必要を感じます。



● 「都市生活」の炊き出し救援活動 ●

(1995年3月から5月17日まで)

開催日	開催会場	食数	当日のメニュー	炊出し人数
3/1	長田在宅福祉センター	100	かに雑炊	7
2	長田在宅福祉センター	100	鶏つくねスープ、野菜スープ、ホウレン草の和え	5
3	長田在宅福祉センター	100	ちらし寿司、すまし汁	6
	長田区内幼稚園		ケーキ	2
9	長田在宅福祉センター	150	ギョウザスープ、なます	6
15	伊丹市宮上児童園	30	いも雑炊、なます	5
16	伊丹市宮上児童園	30	肉じゃが、みそ汁	5
	西宮中央図書館	50	肉じゃが、みそ汁	9
	西宮市庭市民館	50	肉じゃが、みそ汁	6
17	西宮中央図書館	50	ひじきの煮物、みそ汁	9
	伊丹市宮上児童園	30	ひじきの煮物、みそ汁	5
	西宮市庭市民館	50	ひじきの煮物、みそ汁	6
22	西宮中央図書館	100	カレーライス	11
23	西宮中央図書館	100	大根の煮物、みそ汁	11
	西宮市庭市民館	50	大根の煮物、みそ汁	10
24	西宮市庭市民館	50	ホウレン草の卵とじ	10
	西宮中央図書館	100	ホウレン草の卵とじ	11
	芦屋市大原集会所	120	刻み昆布の煮物	8
25	北区 南駒栄公園	200	ちらし寿司	6
28	芦屋市大原集会所	120	ミートボールのクリームシチュー	8
30	芦屋市大原集会所	120	ホウレン草の卵とじ	8
	西宮市庭市民館	100		
	東灘区榑地福祉センター	150	湯豆腐、和え物	6
31	伊丹市宮上児童園		バーベキュー	
	西宮中央図書館	50	ほろろし、白菜と肉だんごのスープ、ホウレン草のおとし	11
	西宮市庭市民館	100	とん汁	
4/3	芦屋市大原集会所	50	煮込みうどん	8
5	芦屋市大原集会所	50	みそ汁、きんぴらごぼう	8
5	本山交通公園	70	湯豆腐、「菜の花」の和え物	5
8	北区 南駒栄公園	200	雑炊	6
10	芦屋市大原集会所	50	みそ汁、肉じゃが	8
11	西宮中央図書館	70	きんぴらごぼう、ミニオムレツ、みそ汁、ご飯	9
12	芦屋市大原集会所	50	みそ汁、高野豆腐の煮込み	8
	東灘区中野南公園	100	湯豆腐、グリーンアスパラの和え物	6
13	西宮中央図書館	70	炊き込みご飯、わかめの酢の物	9
15	北区 南駒栄公園	200	雑炊	6
17	芦屋市大原集会所	50	クリームシチュー	5

開催日	開催会場	食数	当日のメニュー	炊出し人数
18	西宮中央図書館	60	筑前煮、鶏そぼろ、ご飯、即席漬	9
19	芦屋市大原集会所	50	みそ汁、ホウレン草のおひたし	5
20	西宮中央図書館	60	焼き肉、わかめの酢の物	9
24	芦屋市大原集会所	50	けんちん汁	8
26	芦屋市大原集会所	50	みそ汁、切り干し大根の煮物	8
27	西宮中央図書館	60	五目ちらし寿司、わりの草のご飯、すまし汁	9
5/2	東灘区東明公園	50	山菜寿司、竹の子とアキの炊き合わせ、豆腐とアスパラのスープ	6
9	西宮中央図書館	60	きつねうどん	10
11	西宮中央図書館	60	鶏洋風煮込み、切り干し大根煮物	10
16	西宮中央図書館	60	肉じゃが、カレー粉、みそ汁、ご飯	9
17	尼崎市椀田公園	50	山菜おこわ、おはぎ、みそ汁	23

現地救援本部新スタッフ自己紹介

こまつ たかし
小松 高志 (34歳) 生活クラブ生協 (長野)

はじめまして！ 生活クラブ長野より5月8日にまいりました、小松と申します。年齢は34歳、入協歴10年となりました。

「配達業務」にどっぷりと産湯をつかい、いつの間にか、組織作り、センター管理の職責を任じるにあたっては、生協運動のむずかしさの洗礼を運まきながら受けるにいたりました。

昨年末よりいったんは、看護・福祉の資格取得の道を歩み出しましたが、今回の救援活動支援をもって、復職の決意をしました。

8月までず～といますので、よろしくお付き合いください。蛇足ですが、独身であります。

はやし よういち
本木 洋一 (34歳) 生活クラブ生協 (東京)

1994年度初頭に、生活クラブ東京では四つのエリアが分離独立して、単協化をしました(生活クラブ生協東京としても継続)。私は、分離独立した一つの「多摩南生活クラブ」に所属しています。

年齢は34歳、5歳になる可愛い息子と泣き泣き別れて、やって参りました。出身地は、東京の町田市。血液型はB型で、愛車をいじくるとオカリナの演奏が趣味です。

生活クラブ(東京)に入協して12年になります。現在の職種は、多摩南生活クラブ本部組織担当、町田行政区を担当しブロック単協化から町田行政区の単協化を推進する役割をしています。

※ 5/22(月)に来られる、神奈川生活クラブ「ユニオン」の町田進さんと交替します。

〈 新スタッフ自己紹介つき 〉

わしの まさかず
栗野 正和 (44歳) グリーンコープ連合

九州・山口・広島にある16の単協で組織されるグリーンコープ連合の共同購入本部で組織の仕事をしています。今回、生活クラブ生協・グリーンコープから職員を都市生活に派遣すると聞き、被災された皆さんには本当に申し訳ないのですが、この機会に勉強しようとやって参りました。

協同組合として、このような異常事態にどう対応するのか。また都市生活はどう対応したのか。組合員・職員一人ひとりはどう乗り越えて来たのか。学ぶべきことがたくさんあります。現地救援本部の一員として、都市生活の皆さんにお会いできることもあると思います。お話しを聞かせてください。

※ 5/23(火)に来られる、同グリーンコープ連合の広報担当篠原さんと交替します。

★ご連絡ください★

……【夜間の電話(0306181792)もOKです】

現地救援本部では生協都市生活組合員の皆さんからのご連絡をお待ちしています。

組合員ご自身が困っていることがあれば、遠慮なくご相談ください。

救援したいが自分一人ではできないと諦めている方もご連絡ください。

生協都市生活理事会と協議しながら、また大阪事業連の各生協やグリーンコープ事業連合、生活クラブ生協連合会の皆さんとも相談しながら、できるだけのお手伝いや救援活動支援を行いたいと思っています。

●ここにこんな救援を！！

★避難所や仮設住宅などで、炊き出しや食材提供を望んでいる方々がいる。

★被災された方が、生活用品(寝具、電気製品=中古など)を必要とされている。

★地域の人とともに元気になるイベントを開催したい。

●困っています。

★仮設住宅に引っ越したいが、車や人手が足りない。……本格的な引っ越し手伝いは困難ですが、何らかの手助けのご相談に応じたいと思います。

◆◆お気軽にご連絡ください。一緒に解決できるようご相談に応じます。◆◆